

資料配布の場所・日時

1. 筑波研究学園都市記者会(資料配布)
2. 国土交通記者会(資料配布)
3. 国土交通省建設専門紙記者会(資料配布)

日時：令和2年6月24日(14:00)



国立研究開発法人土木研究所『共同研究者の募集』について (再生アスファルト混合物の新たな評価法に関する基礎研究)

国立研究開発法人土木研究所では、令和2年度新規に実施する以下の共同研究について、共同研究者を募集しますのでお知らせします。なお、研究内容等の詳細につきましては、担当チームにお問い合わせください。

1. 土木研究所が提案する共同研究 (土研提案型：公募共同研究)

再生アスファルト混合物の新たな評価法に関する基礎研究 (詳細は別添-1)	令和2年7月(予定) ～ 令和4年3月
担当： 道路技術研究グループ 舗装チーム 先端材料資源研究センター (iMaRRC)	
共同研究の目的 わが国のアスファルト混合物のリサイクル率は約100%であり、今後も高いリサイクル率の維持が望まれている。しかし、近年、繰返し再生等によるアスファルトの劣化やポリマー改質アスファルトの普及により舗装発生材の質も変化し、再生骨材としての品質規格値を満たさないものが増加してきており、リサイクル率の低下が懸念されている。今後は、舗装の耐久性等の性能を確保しつつ、舗装に対するリサイクルの要請に対応する技術を構築していくことが求められている。 現行の再生骨材としての利用の可否は、主に舗装発生材の品質の評価により行っているが、今後の発生材の質の変化に対応するとともに、再生アスファルト舗装の性能確保を図るためには、発生材の評価に加えて、舗装の疲労破壊に対する耐久性や水分に対する抵抗性等に対するアスファルト混合物の評価も含めて検討する必要がある。しかし、現行のアスファルト混合物の評価法は、主に新規材料の性状を踏まえたものも多く、必ずしも再生骨材に対応したものとなっていない。 本共同研究では、上記を踏まえて、アスファルト混合物の高いリサイクル率の維持に向け、再生アスファルト混合物に対する新たな評価法を提案することを目的とする。	
共同研究の内容(項目) 1. 現状評価法の整理 アスファルト混合物の疲労破壊に対する耐久性や水分に対する抵抗性等に関して、現行の評価法(日本および海外)の整理および比較を行う 2. 新たな評価法の開発 繰返し再生されたアスファルト混合物等を適正に評価できるよう、新たな評価法の開発を行う 3. 実用化に向けた課題等の整理 実用化に向けた課題等の整理を行う 4. とりまとめ	

2. 募集期間 令和2年6月24日(水)から 令和2年7月27日(月) 17:00まで

3. その他 土木研究所の共同研究制度の概要や申請書等の様式につきましては、土木研究所ホームページ (<https://www.pwri.go.jp/>) に掲載しております。

別添－1

1. 共同研究の名称

再生アスファルト混合物の新たな評価法に関する基礎研究

2. 共同研究の概要

< 共同研究の目的 >

わが国のアスファルト混合物のリサイクル率は約100%であり、今後も高いリサイクル率の維持が望まれている。しかし、近年、繰り返し再生等によるアスファルトの劣化やポリマー改質アスファルトの普及により舗装発生材の質も変化し、再生骨材としての品質規格値を満たさないものが増加してきており、リサイクル率の低下が懸念されている。今後は、舗装の耐久性等の性能を確保しつつ、舗装に対するリサイクルの要請に対応する技術を構築していくことが求められている。

現行の再生骨材としての利用の可否は、主に舗装発生材の品質の評価により行っているが、今後の発生材の質の変化に対応するとともに、再生アスファルト舗装の性能確保を図るためには、発生材の評価に加えて、舗装の疲労破壊に対する耐久性や水分に対する抵抗性等に対するアスファルト混合物の評価も含めて検討する必要がある。しかし、現行のアスファルト混合物の評価法は、主に新規材料の性状を踏まえたものも多く、必ずしも再生骨材に対応したものとなっていない。

本共同研究では、上記を踏まえて、アスファルト混合物の高いリサイクル率の維持に向け、再生アスファルト混合物に対する新たな評価法を提案することを目的とする。

< 共同研究の内容（項目） >

1. 現状評価法の整理

アスファルト混合物の疲労破壊に対する耐久性や水分に対する抵抗性等に関して、現行の評価法（日本および海外）の整理および比較を行う

2. 新たな評価法の開発

繰り返し再生されたアスファルト混合物等を適正に評価できるよう、新たな評価法の開発を行う

3. 実用化に向けた課題等の整理

実用化に向けた課題等の整理を行う

4. とりまとめ

3. 実施期間 令和2年7月（予定） ～ 令和4年3月

<裏面もご覧下さい>

4. 共同研究の内容及び研究分担

研究の分担

研究項目	研究細目	研究分担		年次計画	
		土研	共同研究者	R2年度	R3年度
1. 現状評価法の整理		◎	○	→	
2. 新たな評価法の開発	2.1 要求性能の提示	◎	○	→	
	2.2 試験法開発	○	◎		→
3. 実用化に向けた課題等の整理		◎	◎		→
4. まとめ		◎	◎		→

5. 共同研究に参画する条件及び募集する参加者数等

< 参画条件 >

- 再生アスファルト混合物の性状評価において、日本で一般的に用いられている試験法(※)以外の新たな方法について具体案を明示できること。
※：日本道路協会「舗装調査・試験法便覧」に示されている試験法
 - 1) で示した試験方法による試験が応募者において実施できること
 - 本共同研究に必要な専門技術者の配置及び必要な費用を分担し、実施できること
- 上記1)、2)、3)すべての条件を満たしている研究機関・会社またはグループとする。

< 参加者数 >

募集する共同研究相手機関数は、3者程度を予定している。

< 参加者の選定方法 >

募集を超える応募があった場合は、共同研究申請書の内容の審査及びヒアリングを実施し、研究実績、研究内容、研究員数及び経歴、研究費等を総合的に評価し決定する。

6. 担当者

道路技術研究グループ

舗装チーム 藪・川上 (TEL: 029-879-6789)

先端材料資源研究センター (iMaRRC)

材料資源研究グループ

新田・川島 (TEL: 029-879-6763)

問 い 合 わ せ 先	
全般的なことについて	国立研究開発法人土木研究所 企画部 研究企画課 課長 百武 壮 主査 田中 勝裕 電話 029-879-6751
研究内容について	国立研究開発法人土木研究所 道路技術研究グループ 舗装チーム 上席研究員 藪 雅行 主任研究員 川上 篤史 電話 029-879-6789 先端材料資源研究センター (iMaRRC) 材料資源研究グループ 上席研究員 新田 弘之 主任研究員 川島 陽子 電話 029-879-6763